

Victory

NO.7

令和3年 10月

宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校図書館



授業支援あれこれ風景



今月は、季節が一挙に塗り替えられた月でした。頬を感じる空気の冷たさ、日ごとに夜の長さを感じたり、装いにとまどう月でもありました。

どうやら、このまま晩秋から冬に向かっていくようです。そういえば、金木犀の香りを感じていないのは私だけでしょうか？みなさんはいかがですか？

「いつものこと」がそうでなくなる瞬間は、案外日常に紛れて見落とされがちです。五感を研ぎ澄まし、深呼吸する時間を大切にしたいものです。



秋の読書週間です！！
10月27日（水）～11月9日（火）

今年の標語は、『最後の頁を閉じた
違う私^{たゆた}がいた』

本は、いながらにして「私」を様々な世界に連れて行ってくれる、まるでドラえものの「どこでもドア」。おまけにその本の主人公に、あるいは主人公に寄り添う大切な登場人物にだってなれるのだ。

そして、気が付くと「私」の内面から熱く時にひんやりとした感情があふれ出し、それらが「私」を包みこむ。いつしか「私」は繭となり、しばし静かなまどろみの中で揺蕩い、新たな世界へ飛び立つ。

本の数だけ「私」はまだ見ぬ「私」と出会うだろう。



中学3年「総合的な学習の時間」(感性)：『文学的言語の創作活動』

創造豊かな感性の育成を図ることを単元目標とした授業で、直接支援としてアニメーション(2時間)を実施しました。

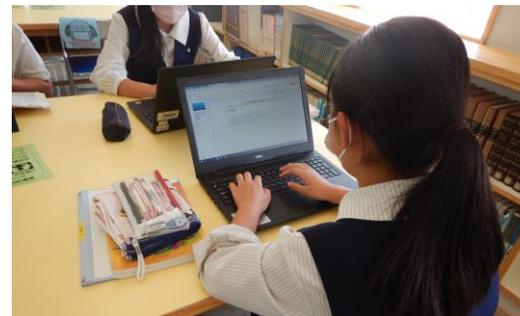
- ①「あなたに代わって自己紹介」：聞く・聴く・訊くそして話すこと
 - ②「この絵からこんな物語」：100文字ストーリーを創作しよう
- 写真は、アニメーション②の様子です。シンプルな絵を見て、オリジナルな物語を創作中。



高校2年「保健」：『社会生活と健康』

昨年度に引き続き、図書館を活用した単元です。9月から取り組み、この時期は各自のテーマに沿って調べて、わかったことをまとめた成果発表の段階です。

- ①教科書→②テーマ設定→③情報収集(ここで図書資料とiPadを使ってデジタル情報の両方を活用)→④整理・分析(情報カードや、メモ等)→⑤まとめ(PCでPowerPointを使用、あるいはレポートに)→⑥発表・評価(グループ、全体)



◎授業支援の詳細は、ホームページの「学校図書館#図書館の日常」に紹介していく予定です。

棚からひとつかみ『入りたてホヤホヤ』

出版業界では、毎日毎日新刊が発行されています。ちなみに令和元年度の総数は71,903冊で平均単価は1,197円でした（出典：統計局ホームページ、日本の統計、第26章文化、26-5書籍新刊点数と平均価格より引用）。この数字を目にするだけで、生きている間に会える本の数がいかに限られているかをしばし考えてしまいます。あなたに本との素敵な出会いがありますように。

「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー-2」
 プレイティみかこ著（新潮社）NDC372フ

13歳になった息子に親離れの季節がやってきた。そんな彼と著者の日常があまりにスタイリッシュでまたまた脱帽だ。「不要になったもの」を「必要とする人」に提供する「リサイクル」を通してミクロとマクロの視点から「本当の意味でのリサイクルって」と考え込む『うしろめたさのリサイクル学』はじめ、相手についてよく考えることはリスペクトすることだという『変化はやってくる』ほか全11章からなる、一生モノの一冊。



「呪術の日本史」加門七海監修（宝島社）NDC387カ

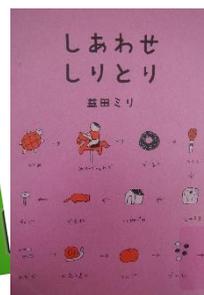
呪術と呪いを軸にした人気マンガ「呪術廻戦」。日本の歴史をひも解けば、古来より呪いは日本人の身近なところに息づいていた。日本で生まれた呪術系統、古典に記録された呪術、日本の信仰からみる呪術など、マンガ「呪術廻戦」の登場人物を通して、読み解いていく。

『鬼滅の日本史』も入荷！

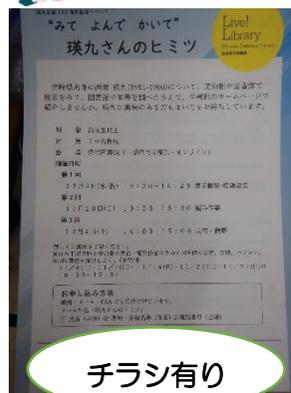


ミニ読書会実施しました。

「ミシマ社の社長 三島氏に迫る！」と題し、
 今月18日、25日の2回図書館ブラウジングスペースで読書会を実施しました。この企画は、10月30日の講演会に向けてのものでした。今回は、三島邦弘さんの著書「計画と無計画のあいだ」（河出書房新社）の本から「はじめに」の部分に参加者で読み合いました。その後ざっくばらんに読後感をアウトプットし合うことで共有する時間が作れたように感じます。その後、一人ひとりミシマ社出版の本を読み、またミシマ社について調べを深め、POPとリーフレットを作成する流れになりました。なお参加者は、8名（図書委員、出版・編集に興味のある生徒）でした。



扉を開こう。新たな世界が君を待っている。



チラシ有り

芸術の秋にふさわしいイベントが目白押しです。美術館と図書館のコラボ企画『みて、よんで かい て 瑛九さんのヒミツ』。図書館にいる人間としては、ぜひ興味を持って参加してほしい内容です。

宮崎県出身の画家「瑛九」の作品を鑑賞後、図書館の本等で調べたうえで図書館のホームページで紹介しようという企画です。情報収集の技を磨くとともに、アートな世界にふれる機会に！

◎開催日時：11月3日、28日、12月4日。詳細はチラシを参照。